

第11号

本小の教育「授業研修会」

2年互見

● 授業スタンダード期 『授業の型づくり』

本日は、2年生の『リレー方式・互見授業』のトリで、学年主任の有子先生登場です。昨年初対面でいきなりJUMPをさせられて、ビックリしたと共に、運氣もUPした気がしています。「為すことによって学ぶ」有子学級は、昨年度から元気があり、規律正しく、返事が特に素晴らしい「特活・クラス」です。2学年の算数「長さ、測定」の単元を、①「新里陽子」先生(初任授業)、②「岸本奈津」先生とリレーをして、アンカーは、③「大城有子」とゆかいな仲間達がつないでいく。本当に楽しみです。2学年職員、「リレー方式・互見授業」ガンバリ。



■ 2年1組(算数) 「大城 有子」先生 5校時 互見授業

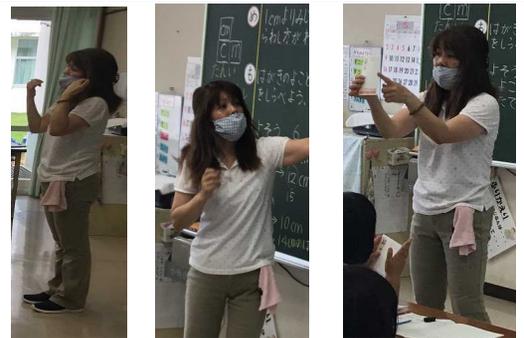
【児童の手(学習規律)】



【教室の色(支持的風土)】



【教師の眼(教師の姿勢)】



■ 児童の規律(躰け)(姿勢・態度) ■

- [黙想][良い姿勢][挨拶は語先後礼]
- 学習用具の準備が全員出来ている。
- 声を揃えて、復唱。普段から何事も返事を徹底指導している。朝の会も発表者、聴く姿勢、学習規律が徹底
- 見る、聴く、考える、書く、けじめ
- 学習規律、支持的風土づくりが良い
- クラスが「安心できる場」となって
- 学び合い、認め合い、高め合う、G!

■ 本時の教材観(本時のねらい) ■

- 「1 cm に満たない長さを表すには？」
- 「昨日と、今日のめあてとの違いは？」
- 「cm」「ノートの1マスに書くお約束」
- 「1 cm以下目盛なし 簡易ものさし」
- 「1 4 cm の半分」⇒「何の半分？」
- 「1 5 cm とちょっと」⇒「・・・？」
- 「これまで知らない」「新しいものへ」
- ※ 子どもの疑問、測定活動に色々な問題・課題が生まれて[脳を刺激]する。

■ 教師の姿勢(声かけ)「教師力」 ■

- [教]まるで指揮者のように子共を操る
- [教]声かけ、手振りに子共は反応する
- [教]聴く、繋ぐ、戻す、テキパキと!
- [前時のお勉強]ノートのまとめを見る
- [マイノート有]子のノートと字数一致
- [書けましたの合図は]鉛筆を置き見る
- [短学活]を大切に「学級経営」だ
- [子共の活動]が、テキパキ順調に流れ
- ※ 教師の声かけが、「肯定感」を高める



【感想】 「互見授業・リレー方式」(2の1:有子先生) ..。 本当に 有難う ございました。♥

※「リレー方式・互見授業・2学年、算数」を参観させていただきました。全体的な感想を述べます。
 ○「児童観」は、生活経験等の異なる子共達を、教科書へ、教材へ、友の声へ、「つなぐ」役割がある。
 ○「教材観」は、「問い」方を「学ぶ」こと。「学んだ」ことを「問う」こと。視点を持って教材分析を。
 ○「指導観」は、「子共を見取ること」。「教師の眼」⇒「観る」「視る」「覧る」「看る」「診る」「鑑る」。
 ○「算数観」は、「たす」=[助け合う]、「ひく」=[引受ける]、「掛ける」=[声を掛ける]、「割る」=[いたわる]
 ○「授業改」は、「教師の指示」が多い。「指示を仰ぐ質問」が多い。今、すべき事は分かっているはず。
 ○「良授業」は、「自立・自律」を促し、自覚を持たず「学級経営」にある。日々の学級経営が基盤だ。

